

<b>学校教育目標</b>	かしこく ◎あたたかく つよく	すすんで取り組む子 仲良く助け合う子 健康でたくましい子	深く考え豊かに表現する子 全ての命を大切にする子 最後までやりぬく子	<b>重点目標</b> あたたかく 仲良く助け合う子 全ての命を大切にする子
---------------	-----------------------	------------------------------------	------------------------------------------	----------------------------------------

学校教育目標	中期的目標	短期的目標	具体的な方策	評価指標	達成状況				分析	改善策	学校関係者評価
					教員 中間 評価	教員 最終 評価	児童 最終 評価	保護者 最終 評価			
かしこく	よさ、可能性を伸ばし、自己肯定感を育てる学校	①主体的・対話的で深い学びの推進	ユニバーサルデザインの授業の推進	児童及び保護者対象のアンケートによる肯定的な評価の割合が80%以上	◎	◎	◎	◎	児童及び保護者の評価が◎である。多くの児童が、安心して学習できる環境づくりが進んだ結果と考える。	引き続き ICTを活用しながら、UDの視点である「焦点化・視覚化・共有化」を推進し、誰一人取り残されることのない能動的に参加する授業をめざす。	【学校教育目標(かしこく)に関して】 「どの学級もめあて・まとめの板書がされており、授業の流れの意識付けができています。」 →今後も児童が見通しをもちやすい授業(板書)計画を考える。  「ICTの活用として、休み時間にゲーム感覚で使用している児童があり、使用についてのルールづくりが必要と感じた。」 →休み時間等の一人一台端末の活用の仕方を、児童のコミュニケーション能力の育成を念頭において再確認する。
			問題解決的な学習の重視		◎	◎	◎	◎	児童及び保護者の評価が◎である。児童に問題意識をもたせるような授業構成を、多くの教職員が意識し取り組んだ結果と考える。	引き続き、問題を立て解決していくプロセスを、各教科で充実させる。更に、探究的なアクティブラーニングで問題解決能力を培う授業を推進する。	
			基礎学力の定着		◎	◎	◎	◎	児童及び保護者の評価は◎である。児童が「分からない」と感じる部分を丁寧に見取り、対応した結果と考える。また、AIドリルの活用も一因として考える。	引き続き、算数科の補習教室を開いたり、東京ベーシックドリルの分析結果を効果的に活用したりして、基礎学力未定着の児童に積極的にアプローチする。	
			Monoxerの使用			○	▼	▼	Monoxerの効果を肯定的にとらえているのは、児童・保護者共に5割程度。今後も使用したいと考えている児童は4割、保護者は5割程度となった。使用感については、「正しく書いたつもりでも×にされる」というような、AIドリルの仕様に否定的な反応が多数あった。	Monoxerの費用対効果や、タブレットとモノグサの相性の悪さ、児童・保護者の意見を踏まえ、次年度は Monoxer の使用をやめる。来年度は、従来のドリルやミライシード、その他 Monoxer 以外の学習アプリなど、学年の実態に応じて各学年で選択、活用する。	
		二小スタンダードに基づく学習習慣の確立	◎		◎	◎	◎	教員、児童及び保護者の評価は◎であった。	引き続き、「二小スタンダード」を基にし学習習慣確立に向け、継続して指導する。		
		②夢の素材を育むキャリア教育	総合的な学習の時間を中心としたキャリア教育の充実		○	○	○	○	肯定的な回答が80%はこえているが、他の項目と比較すると課題を感じている児童・保護者が多い。	今年度4年生の総合的な学習の時間で「キャリア教育」の単元を新設した。引き続き、積極的・能動的な学びを推進する。	
あたたかく	健康な心身と豊かな情操・心情を育む学校	①人間関係形成力の育成	いじめの防止	◎	◎	○	◎	肯定的な回答が児童は84%、保護者は90%をこえている。	アンケート結果は良好だが、いじめ防止基本方針や対応手順など職員が更に理解を深めていく必要がある。	【学校教育目標(あたたかく)に関して】 「いじめは数字に表れにくい。加害児童にいじめている感覚がない、いじめに気付ける機会が少ないなど、数字に表れない部分のケアを大切にしてほしい。」 →いじめアンケートや保護者からの連絡により対応をすることが多く、児童が直接担任に申し出ることは少ないため、児童の異変に気付ける研修体制を今後も続けていく。  「校内支援体制のおたより配布はあるが、どんな支援があるのか分かりづらい。」 →支援の具体的な例を示すなど、保護者への通知方法を見直していく。	
			あいさつの推進	◎	◎	○	◎	肯定的な回答が児童は85%、保護者は90%をこえている。	あいさつが十分でない児童には、教職員側からあいさつを励行し見本となり、児童の能力を伸ばさせる。		
			二小スタンダードに基づく生活指導の徹底(時間を守る、廊下歩行)	◎	◎	◎	◎	肯定的な回答が児童は93%、保護者は90%をこえている。	アンケート結果は良好だが、朝の時間の使い方について各学級でばらつきがあるので、次年度は改善していく。		
			ふわふわ言葉の推進	◎	◎	◎	◎	肯定的な回答が児童は91%、保護者は90%をこえている。	月目標やふれあい月間と連動し、今後も継続して指導していく。		
		②一人一人がその子らしくいられる教育環境	校内支援体制の充実	◎	◎	○	◎	肯定的な回答が児童は89%、保護者は85%である。	校内支援体制について4月当初だけでなく、9月にも説明し、保護者に周知していく。		
			合理的な配慮に基づく教育を推進	◎	◎	○	◎	肯定的な回答が児童は89%、保護者は90%である。	誰でもトイレの設置や、人的配慮が十分である現状の強みを継続し、今後も教育環境を整える。		
つよく	健康な心身と豊かな情操・心情を育む学校	①体力づくり健康づくり	体育授業の充実 ・校庭の整備 ・体育用具の充実	▼	▼	▼	▼	教員、児童及び保護者の評価は▼であった。新校舎設立のため、校庭の広さが減り、制限下での体育授業に児童は不満を抱え、教員は授業のしづらさなどの課題があったと考える。	限られた校庭での授業の充実のために、単元構成の工夫や学年間での協力体制を強固にする。体育倉庫以外にも体育の用具を置くスペースを作り活用する。	【学校教育目標(つよく)に関して】 「昨年度よりさらに校庭が狭くなり、体育などの授業が心配。」 →校庭に新設したのマーカの活用など、既存の設備を工夫して活用しながら、今後も授業の充実を図っていく。	
			アレルギー対応の徹底 ・食育推進 ・給食ステーションとの連携	◎	◎	◎	◎	教員、児童及び保護者の評価は◎であった。くにたち食育推進・給食ステーションとの連携も順調である。特に、保護者の肯定的な回答は95%をこえた。	トレイの色を変えるなど、児童も教員も視覚的に捉えやすくなり、アレルギー対応が行いやすくなった。今後も活用を維持していく。		
			保護者・地域と連携した安全教育・セーフティ教室 ・いってらっしゃいの週	◎	◎	◎	◎	教員、児童及び保護者の評価は◎であった。特に、保護者の肯定的な回答は90%をこえた。	マンネリ化にならないように常に内容を刷新し、児童が自主的に考え行動できるような安全教育を全教員で行う。		
		②創造的な活動の充実	展覧会 縦割り班 クラブ活動	◎	◎	◎	◎	教員、児童及び保護者の評価は◎であった。	さらに充実をはかり、今後とも活用維持に努める。		